
睦言

土田かこつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

睦言

【Nコード】

N33720

【作者名】

土田かこつ

【あらすじ】

『彼がどこかさみしそうだったから、できるだけ優しい声音で「愛してるよ」と言ってみた』
苦笑で流された睦言。
残酷なのは彼か私か。
好きだったのは。信じていたのは。疑っていたのは。信じてほしかったのは。はたして、どっちだったのか。

彼がどこかさみしそうだったから、できるだけ優しい声で「愛してるよ」と言ってみた。

そしたら、

「ケイのそれは自己満足だよ」と、少し笑って彼は言った。
ひどい男だ。

昨日映画を見にいった。

ちやちなタイトルの、でもわりによくできたラブストーリーで私はよく泣いた。とはいえ泣くという行為は言葉たらずな私にとつてただの感情の発露でしかない。

だから彼も見慣れたもので、

「今日は鼻水出なかったな」

と、からかわれただけだった。

帰りがけ、チェーン店のファミレスで唐突に彼は言った。

「ケイは俺のこと信じてる？」

ナポリタンをすすったかっこうで私は顔をあげる。

「なんで？」

彼は顔をしかめて「はねてるぞ」と言い、白いシャツの赤いシミに私は舌打ちした。

「で、なんでそんなこと言うの」

しかめた顔のまま唇をゆがめる。

「俺はケイのこと疑ってるから」

付き合い始めた当初、彼は私のことを信じて、あるいは信じよう

としてくれていたらしい。

でも一年の時間をかけてちまちまと裏切っていたら信用をなくしてしまったようだ。

しかし、どうしてこの人は信用と一緒に好意をなくしてしまわなかったのだろうか。

疑っていると行って自嘲する彼のことを思う。

信じていないではなく、疑っている。低い声の向こうに、信じたいという色が見えて私はどきりとした。

疑うという行為はとも面倒なことだ。疲れることだ。もうやめてしまえばいいのにも思う。

だけど好意と不信の間で苦しそうな顔をする彼の姿は、少しみじめですごく魅力的なのだ。

そんな彼が私は好きだった。

ひどい女だ。

私は彼を信じない。だから彼を疑わない。

彼がどこかさみしそうだったから、できるだけ優しい声で「愛してるよ」と言ってみた。

そしたら、

「ケイのそれは自己満足だよ」

と、少し笑って彼は言った。

そのとおりなのかもしれない。

でも彼には言われなくなかった。

せめて彼ぐらいは騙したかった。

なのに、彼だけは騙せないのだ。

彼は私を疑っている。

電話はやはり唐突だった。

用件は単刀直入で、何の前置きも脈絡すらなく。

『別れようか』

抑えた声に背筋が冷える。

「…なんで」

『もう、疲れた』

それは確かにそうだろう。あれだけ疑っていれば。あれだけ、しかし。しかし、これは私の望む状況ではない。

「私のこと、好きじゃないの」
できるだけ冷めた声に聞こえるようにつとめる。

卑怯なのはわかっている。しがみつくのは好きじゃない。だけど、他に手段が出てこない。

ところが。

『わからない』

あっさりと言った。

虚をつかれて呼吸を止める。わからない、と、彼は言った。

私は彼を信じていない。だから彼を疑わない。

嘘。

結局、私は信じていたのだ。

彼の行為を。そこににじむ好意を。そのことを忘れてしまつほどに。

馬鹿みたいだ。

一気に力が抜けてしまった。目からウロコってこつこつことを言うのだろうか。

妙におかしくなってくすくすと乾いた笑いをこぼした。

頭がうまく動かない。

彼の言葉は続く。

『ケイはどっと思っっ?』

『俺はケイのことを好きなんだと思っっ?』

「うん、」

『なら、きっとそうなんだろう。ケイが信じてくれるなら』

「じゃあ、私は?」

「私には、信じてくれる人はいないの」

『信じてほしい?』

「うん」

自分の声に意識がもどる。

『じゃあ、言って』

口調がほんの少し強くなる。

「好きだよ。愛してるとは言わないけどさ」

受話器から小さく息をはく音がした。笑ったのか。落胆だったのか。

もうそれを知る方法はない。

『…うん』

それでも、彼のこたえが肯定だったから。

私も細く息をはいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3372o/>

睦言

2010年10月16日05時11分発行